

# 山形県酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告5

Overview on Archaeological Excavation of the Oishi 2 site in  
Sakata City, Yamagata Prefecture, Vol.5

青野 友哉 AONO Tomoya

佐藤 祐輔 SATO Yusuke

渡部 裕司 WATANABE Yuji

## 要 旨

本稿は山形県酒田市生石2遺跡の第5次調査の概要報告書である。本年度は、2024年度と同じ調査区(標高14.0m付近の低地部分10m×5m)の本発掘調査を実施した。調査の結果、古代の掘立柱址1基、柱穴2基、土坑1基を検出した。また、弥生時代の遺物包含層を2層確認し、弥生中期初頭と後期の土器が出土した。調査は次年度以降も継続する。

## 1. 研究の目的

東北芸術工科大学では2020年度から「庄内地方の特性に基づく遺跡・遺物の活用の研究」を開始し、縄文～弥生時代を対象にした遺跡の調査・研究と現代における活用方法を探ることを目的としている。

本報告は上記の計画のうち2025年9月に実施した生石2遺跡第5次調査について概要を記したものである。遺跡の概要については既刊の概要報告(青野他 2021)に記載しているため、本稿では省略している。

## 2. 調査要項

遺 跡 名：生石(おいし)2遺跡

登 載 番 号：204-041

所 在 地：山形県酒田市生石登路田9-20

調 査 主 体：東北芸術工科大学(学長：中山ダイスケ)

発掘担当者：青野友哉(東北芸術工科大学教授)

調査参加者：東北芸術工科大学歴史遺産学科准教授：佐藤祐輔、大学院歴史文化領域修士1年：堀籠光太郎、歴史遺産学科3年：阿部真輝・池田夕夏・大沼賢史・鈴木麻帆・深瀬央太、2年：伊藤太陽・加々島楓花・倉橋研人・小池桔平・菅野まみ・星川太良・本田蒼偉・武藤由依・山縣碧海、1年：北山優衣・熊谷帆香・栗田真里・近内拓太・今野葉月・東海林希・西山心

海、文化財保存修復学科1年：阿部ゆきの・荒木華凜・沖野真優・佐々木里紗・中里柚

作図・トレース：青野友哉・佐藤祐輔

調 査 面 積：50㎡(10m×5m×1箇所)

調 査 期 間：2025年9月7日(日)～9月13日(土)

出土文化財：縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器

出 土 数 量：1箱[内寸679×367×122mm]

## 3. 発掘調査の方法

2025年度の調査区は2024年調査区と同じ範囲(10m×5m)であり、2m×2mのグリッドを設定し、東から西にアルファベット(A～C)、北から南に算用数字(1～5)を振り、組み合わせて呼称している(図2、例：A1グリッド)。

2024年度に古代の遺物が集中していたA1～A3、B1～B3グリッドを掘り下げて遺構確認し、検出した掘立柱址、柱穴、土坑を順次掘削して土層断面図と平面図を作成した(図3)。遺構内出土の遺物は土層ごとに一括して取り上げた。

また、調査区東壁面にあたるC1～C5グリッドには、弥生時代の遺物包含層を確認するために幅0.3m、長さ10mのトレンチを設定した。トレンチは調査区全体から湧き出る地下水を排水する目的も兼ねており、先行して掘削している。なお、C3・C4グリッドの一部は近・現代の攪乱層が基本土層のⅢ層まで達していたため、その場所を利用して排水ポン

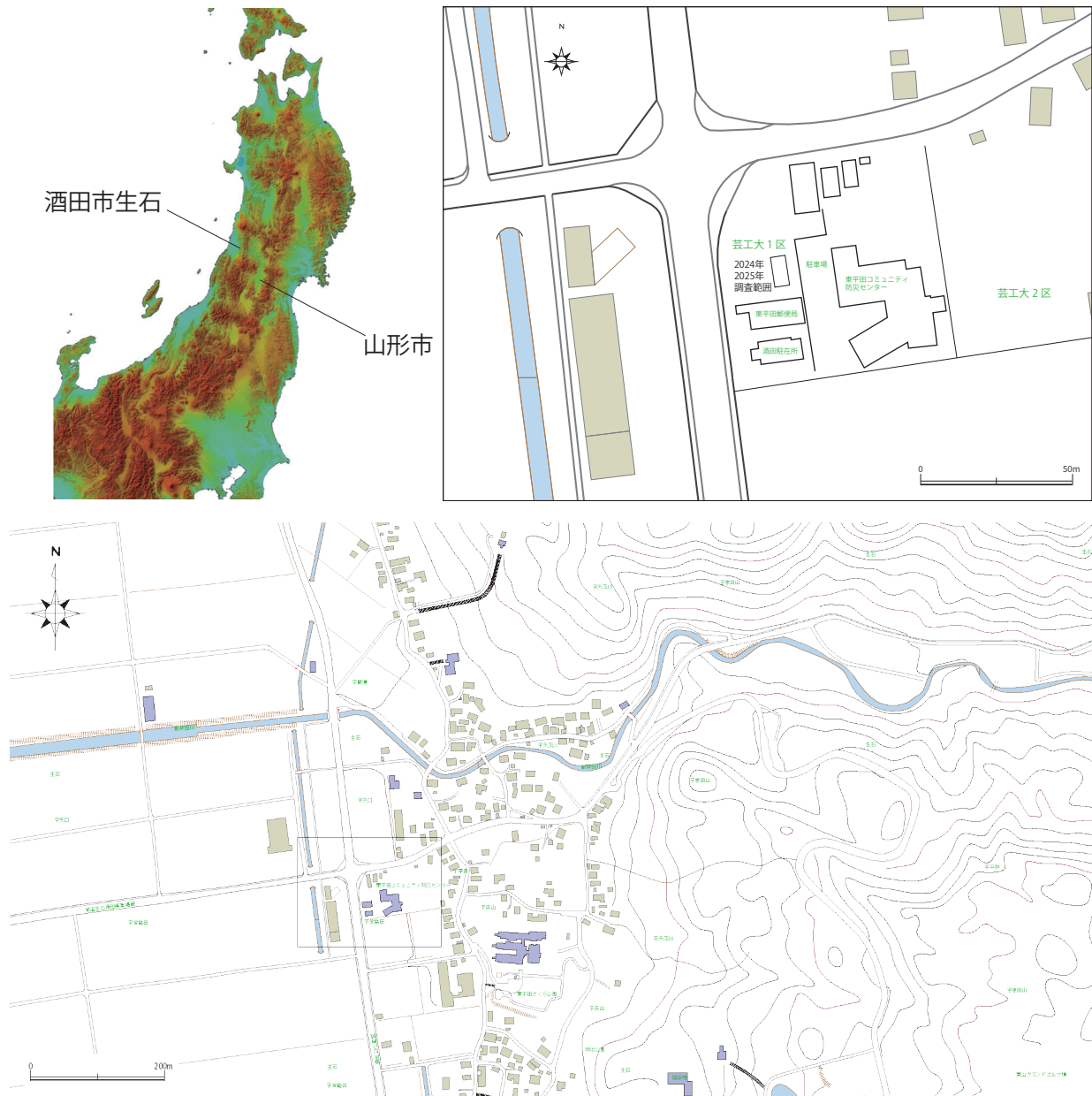


図1 酒田市生石2遺跡の位置(電子地形図(国土地理院)を加工して作成)

プの設置場所とした。

遺構外出土の遺物は、弥生土器のみ出土位置を記録し、その他はグリッドと層位ごと一括して取り上げた。

#### 4. 遺構・遺物・サブトレンチ

重機により昨年度の埋め戻し土を掘削したのち、人力による掘削に切り替えて遺構確認を行なったところ、古代の遺構が検出された。当初は灰色シルト層の中に黒色シルトが円形に残存する箇所に対して柱穴1～3と遺構名をつけて

調査した。掘削中に柱穴1は掘立柱建物の1つであることが判明した。

また、調査区東壁に沿って設定したサブトレンチでは弥生土器の包含層を2層確認した。

##### (1)柱穴1(掘立柱址、図2・3、写真2)

柱穴1はB2グリッドに位置し、南北0.63m、東西0.58mの掘り形の南半部に、南北0.25m、東西0.32mの柱痕跡を伴う掘立柱址である。深さは現存最大で0.18mである。土層断面図の2層(暗灰色シルト層)が柱痕跡にあたる。

生石2遺跡の既往の調査では南北方向に長軸を持つ掘立

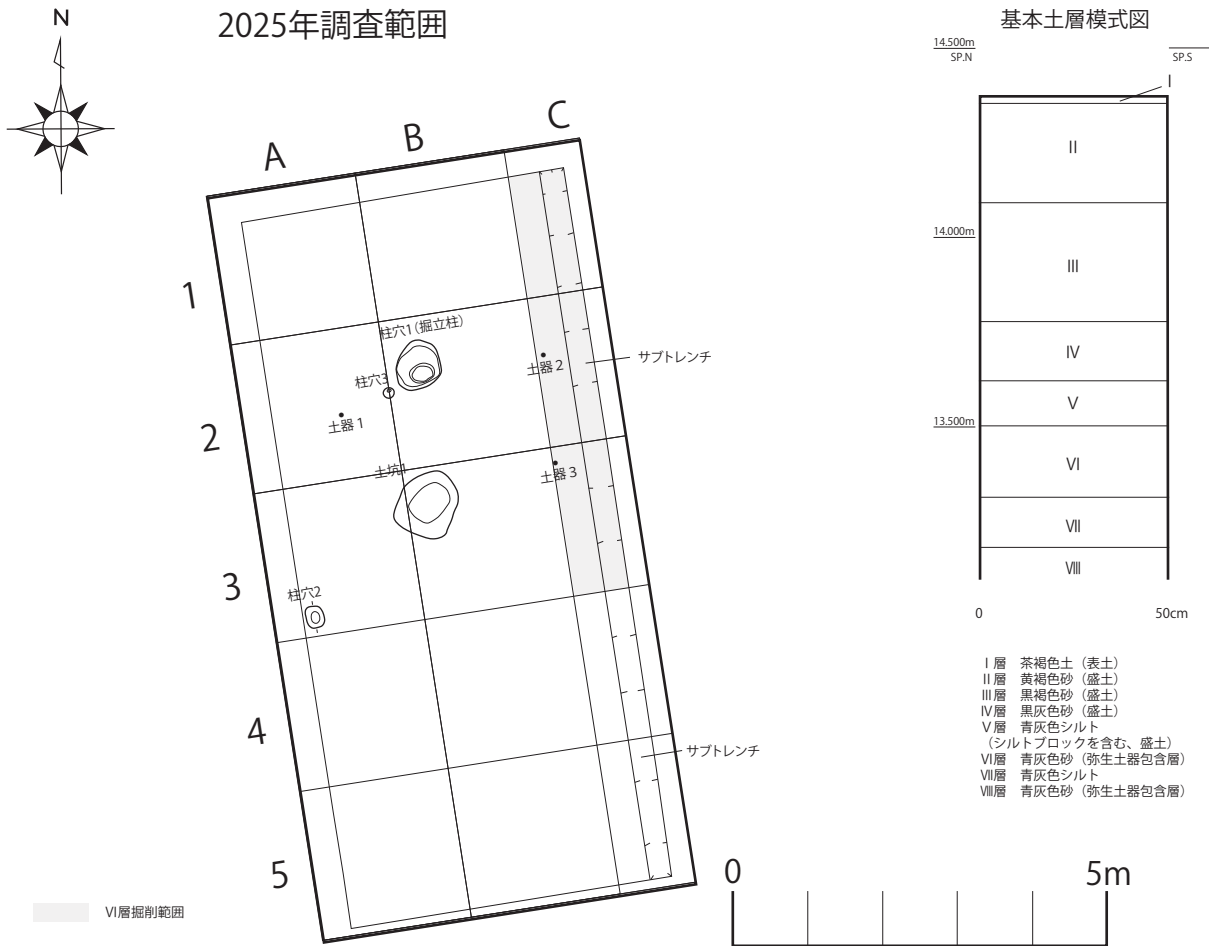


図2 調査区の平面図及び基本土層図

柱建物址が検出されているため、柱穴1との組み合わせを検討した。その結果、柱穴1から北方向に約3mの調査区壁面付近に黒色シルトの落ち込みがわずかにみられ、唐尺の10尺に相当することから、一連である可能性が高いと判断したが、遺構の大半が調査区外にあるため調査はしていない。また、柱穴1の南方3mのB3グリッド南半分は近・現代の攪乱層が存在しており、東西方向についても調査区外となることから、組み合わせとなる掘立柱址は確認できていない。

遺物は土師器片・須恵器片がわずかに出土するのみである。

#### (2)柱穴2(図2・3、写真3)

柱穴2はA3グリッドの調査区西壁面付近に位置し、南北0.28m、東西0.23m、深さは現存最大で0.32mである。柱穴の断面は先端が尖る形状であることから打ち込み柱の可能性はある。

#### (3)柱穴3(図2・3、写真4)

柱穴3はA2グリッドとB2グリッドに跨った位置にあり、

平面形は直径0.14mの円形を呈している。深さは現存最大で0.20mである。柱穴の断面は先端が尖っており、打ち込み柱と判断した。なお、柱穴2と柱穴3との関連性は不明である。

#### (4)土坑1(図2・3、写真5)

土坑1はA3グリッドとB3グリッドに跨った位置にあり、平面形は不正楕円形で、長軸0.89m、短軸0.74mである。深さは現存最大で0.20mと浅く、断面形状は凹凸のある皿形である。覆土は多量の炭化物を含む暗灰色シルトで、遺構下部に火焼面がみられないことから炉ではなく、焼却物を埋めた土坑と考えられる。

#### (5)サブトレンチ1(図2、写真6)

調査区東側では弥生土器の遺物包含層を確認するため、C1～C5グリッドに幅0.3mのサブトレンチを設けた。

C4・C5グリッドからは8世紀代の土師器の坏など古代の遺物が集中して出土したが、弥生土器片はC1～C3にかけて出土する傾向が見られた。出土層位は基本土層のVI層(青灰色砂・砂礫)及びVIII層(青灰色砂)である。サブトレンチの

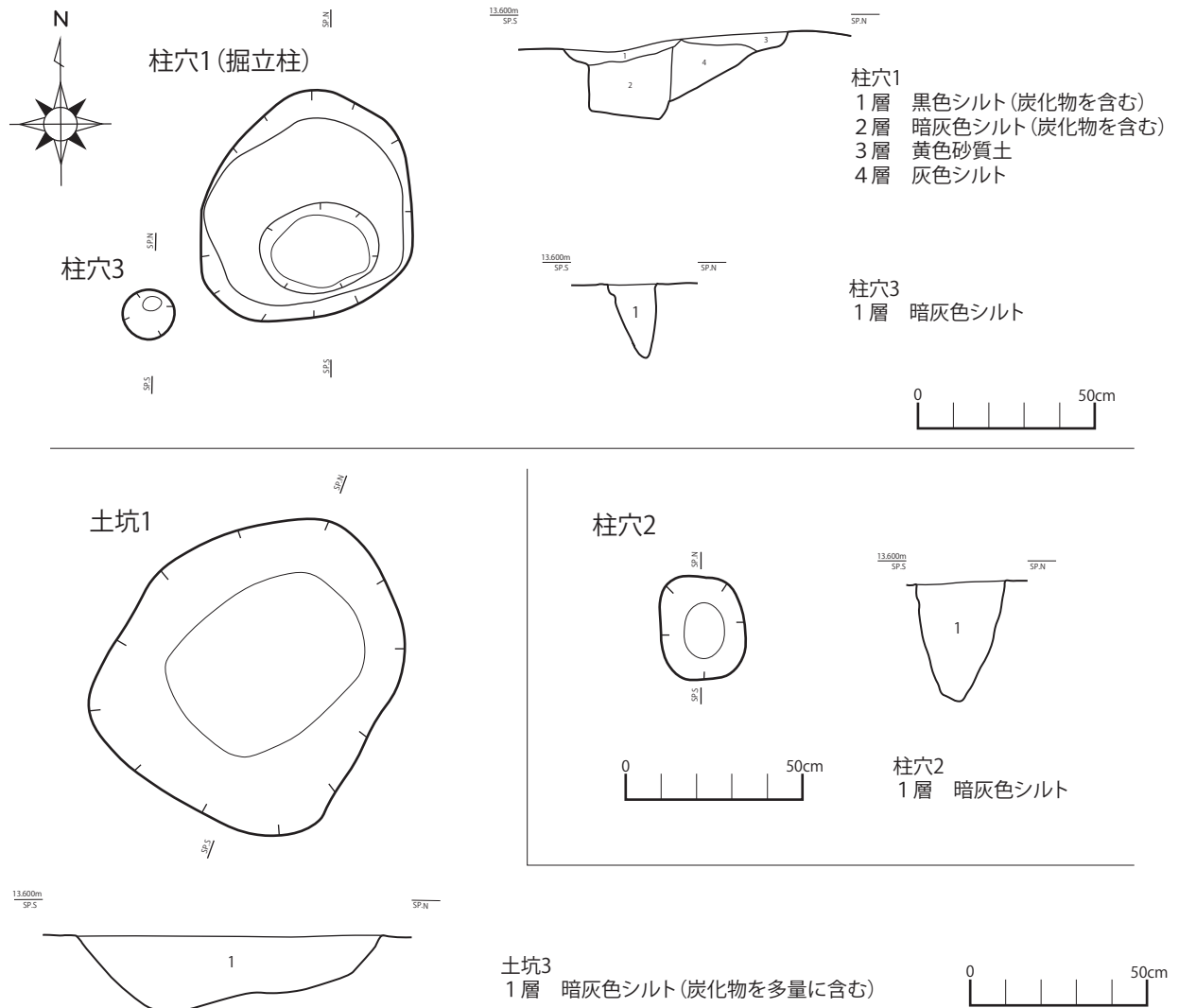


図3 遺構平面図及び土層断面図(柱穴1~3、土坑1)

掘削により、弥生土器の包含層が確認できたことから、掘削範囲をトレンチの西側(C1~C3グリッド)に広げて掘り下げた。この範囲からは土器2と土器3(第4図2)が出土している。

(6)出土遺物(図4、写真8)

弥生時代の遺物としては、時期が判断できるものとして中期前葉、後期の土器が1点ずつ出土している。

第4図1は中期前葉の鉢の破片で、文様带上端を1本の横帯で区画し、複線流水型変形工字文を描く。弥生前期の土器に比較して、文様の単位は非常に小さく、文様の描出も丁寧ではない。

第4図2は弥生後期の甕の口縁部破片である。1本描き沈線で3条を平行させて山形文を描く。内外にスス状の痕跡が残る。

第4図3~6は粗製土器(甕)の破片である。破片サイズが5cm以上のものを図化した。横位のLR縄文を施文するものが多いが、6のみRL縄文が施文されている。3・6にはス・コゲが一部残る。

5. 成果と課題

2025年度の発掘調査では、8世紀代と考えられる掘立柱建物址の一部や土坑、柱穴などの遺構を確認し、記録することができた。

また、昨年度検出していた弥生時代の遺物包含層の下位に、無遺物層を挿み、別の遺物包含層が存在することも判明した。これまでの調査では確認されていなかった弥生後期の土器の出土は、遺跡の存続期間を考えるうえで重要であ

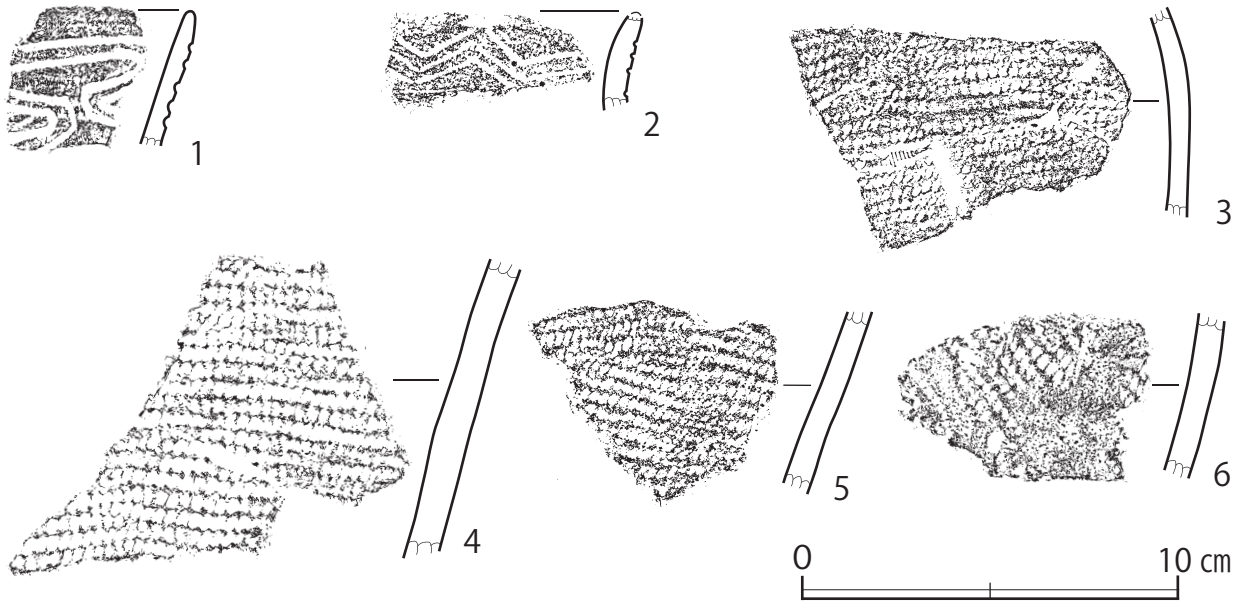


図4 第5次調査出土の弥生土器

る。2つの包含層の間にあるⅦ層(青灰色シルト)からは現時点で遺物が出土していないが、今後は調査面積を広げて遺構・遺物の有無を確認し、遺跡の形成過程を把握する材料としたい。

#### 謝辞

調査・報告にあたり、下記の機関および個人より協力を得た(敬称略)。庄司はつせ・庄司 博、酒田市教育委員会、東平田コミュニティ防災センター、東平田郵便局。

#### 参考文献

- 青野友哉・北野博司・渡部裕司 2021「酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告」『歴史遺産研究』第15号、東北芸術工科大学、pp.51-58
- 青野友哉・渡部裕司 2023「酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告2」『歴史遺産研究』第17号、東北芸術工科大学、pp.59-62
- 青野友哉・北野博司・渡部裕司 2024「酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告3」『歴史遺産研究』第18号、東北芸術工科大学、pp.43-48
- 青野友哉・佐藤祐輔・渡部裕司 2025「酒田市生石2遺跡発掘調査概要報告4」『歴史遺産研究』第19号、東北芸術工科大学、pp.45-50
- 酒田市教育委員会 1987『山形県酒田市生石2遺跡－宅地造成に伴う緊急発掘調査の概要－』pp.1-24
- 酒田市教育委員会 1995『山形県酒田市生石2遺跡－東平田コミュニティ防災センター建設に伴う緊急発掘調査の概要－』pp.1-10
- 山形県教育委員会・山形県埋蔵文化財緊急調査団 1985「酒田市生石

2遺跡 第2次調査説明会資料』pp.1-13

山形県・山形県教育委員会 1985『生石2遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書 第89集、pp.1-34

山形県・山形県教育委員会 1987『生石2遺跡発掘調査報告書』(3)山形県埋蔵文化財調査報告書 第117集、pp.1-18



写真1 調査区(芸工大1区・北東から撮影)



写真2 柱穴1(掘立柱址)の断面(東から撮影)



写真3 柱穴2の土層断面(東から撮影)



写真4 柱穴3の土層断面(西から撮影)



写真5 土坑1の土層断面(西から撮影)



写真6 サプトレンチの調査(北から撮影)



写真7 調査区全景(北から撮影)



写真8 出土遺物